

第 30 回会長の時間 水と衛生月間 3 月 9 日

先週は、吉村亨様の宇部ロータリークラブ在籍 50 周年を祝う会に多数ご参加いただきありがとうございました。吉村様にまつわるエピソードをいろいろ聞かせて頂きまして大変貴重な時間を過ごせました。

さて、昨年度より RI では、3 月は「識字率向上月間」から「水と衛生月間」になりましたので、本日は水と衛生月間に因んだお話をさせていただきます。

地球は「水の惑星」とも呼ばれていますが、地球の表面の 3 分の 2 は水で覆われていて、およそ 14 億立方キロメートル（14 億立方トン）の水があるといわれています。しかし、そのうちの 97.5% は海水であり、淡水はわずか 2.5% しかありません。しかも、この淡水の大部分は南極や北極地域などの氷や氷河として凍っており、凍っていない水は地下水として存在しているため、人間が容易に使える水は全体のわずか 0.01%（10 万立方キロメートル）にしか過ぎません。私たちにとって、水は毎朝の習慣に欠くことのできないものです。朝、起きてトイレに行き、顔を洗って歯を磨きます。キッチンへ行き、やかんやポットに水を入れ、コーヒーやお茶を入れるための湯を沸かします。朝のこの生活にもすべて私たちは水の恩恵を受けています。しかし、世界の中には、こうした習慣とは無縁の地域が数多く存在しています。きれいな水、トイレ、衛生設備がない日常を送っているのです。世界には、RI の資料によると十分な衛生施設を利用できない人びとが 25 億人以上います。また、汚染された水で下痢疾患を患い、命を落とす子どもたちが毎日 3000 人（20 秒に 1 人）いるといわれています。RI は、「水と衛生」に対して、地域社会が長期的に水を確保し衛生施設を維持できるよう支援するほか、水と衛生に関連する研究支援・人材育成にも力を入れています。きれいな水は、人間の基本的ニーズの一つで、人々特に子供たちがより健康で、実りある生活を送ることを可能にします。また、RI は、井戸を掘ったり、雨水貯蔵システムを設置したりするだけでなく、それらの設備を維持する方法を地域の人たちに教えてきました。飲み水がないために亡くなる人は少ない一方、汚染された水を飲むことによって病気にかかる人は数百万人に上るため、発展途上国で衛生設備の整備にも取り組んでいます。下水や汚水タンクとつながった水洗トイレを提供すると同時に、手洗いやその他の衛生習慣を推進しています。

さて日本では水不足を日常的に感じることはあまりありませんが、世界の水問題はわれわれにとって無縁ではありません。仮に世界の水問題が深刻化すれば、海外において十分な食物を生産することができず、日本は必要とする量の食料を輸入することができなくなります。その日本でも、未だに記憶に残る 6

年前の東日本大震災では水不足に陥りました。震災後のアンケートで被災者が困ったこととしてあげた中で一番多かったのは「水・食料が入手しにくい」で24.4%でした。安全な飲料水の確保が困難であり、簡易トイレが衛生的に利用できない点でした。次いで2番目は、「ガソリン・灯油が入手しにくい・入手できない」で19.9%でした。自然災害の多いわが国では、水の問題は決して他人事ではありません。

さて、世界に目を向けますと、きれいな飲み水が利用できない人は7億4,800万人います。またアフリカの僻地に住む女性たちの中には毎日6時間かけて水を汲みに行かねばならない人もいます。RIでは、誰もが安心して飲める衛生的な水を世界の人が手にできるという目標を2030年までに行うことを掲げています。最後になりますが、3月22日は「世界水の日」です。水資源の保全と開発について理解と関心を深めるための日です。身近なところでは、炊事や入浴時のシャワーの際についつい無駄にしがちな水ですが、節水を含めて水の重要性について改めて考えたいと思います。

本日は、水と衛生月間に因んだお話をしました。